

出展者（五十音順）



evala

音楽家、サウンドアーティスト。新たな聴覚体験を創出するプロジェクト「See by Your Ears」主宰。立体音響システムを駆使し、独自の“空間的作曲”によって先鋭的な作品を国内外で発表。国際賞アールスエレクトロニカや文化庁メディア芸術祭などで受賞多数。現在、NTT ICCにて「evala 現われる場消滅する像」展が開催中。（～2025年3月まで）Photo: Susumu Kunisaki



落合陽一

メディアアーティスト。1987年生まれ、2010年頃より作家活動を始める。境界領域における物化や変換、質量への憧憬をモチーフに作品を展開。2016年 PrixArsElectronica 栄誉賞受賞、「ヌル庵:騒即是寂の寂即是騒」(Gallery & Restaurant 舞台裏, 2024)、「昼夜の相代も神仏: 鮫洲・鯉ドラゴン」(東京・BAG-Brillia Art Gallery-, 2024)など国内外で展示多数。profile photo: Jun Sugawara



河野未彩

視覚ディレクター／グラフィックアーティスト。多摩美術大学プロダクトデザイン専攻卒業の後、アートディレクション・グラフィックデザイン・映像・プロダクト・空間演出など多くの媒体で創作活動が続ける。多色の影をつくる照明「RGB_Light」は、日米特許取得からパナソニック関連企業からの製品化までを実現。主な個展に「宙 飛ぶ リンゴ -APPLE in the SKY-」(2024)、「<<脳内再生>>」(2022)など。



KURANOIE

KURANOIE は、3人の若手デザイナーで構成されるデザインスタジオです。ライフスタイルの異なる3人によって導かれる核を明快な造形で表現します。そうして生み出された独特の美意識が宿る作品は、人々の好奇心を駆り立てます。素材開発からプロダクトデザイン、展示計画まで多彩なジャンルのデザイン業務に携わっています。Milano SaloneSatellite 2024、UNKNOWN ASIA 2024 など国内外展示多数。



小林 椋

2017年 多摩美術大学大学院美術研究科修士課程情報デザイン領域修了。2019年 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程彫刻専攻修了。ものの「動き」を起点にしながら、不和のようなもの発生させる装置を組み立てたり、そうした仕組みをほかの事物と類推させることで生まれる飛躍を観察しながら作品を制作する。



Houxo Que (ホウコオ キュウ)

10代でグラフィティと出会い、ストリートで壁画中心の制作活動始める。以後現在まで蛍光塗料を用いたペインティング作品とブラック・ライトを使用したインスタレーションで知られる。作品の制作過程をショーとして見せるライブペイントも数多く実施。2012年頃よりディスプレイに直接ペイントをする制作を行いはじめ、2014年 BCTION、2015年 Gallery OUT of PLACE にて 16,777,216view シリーズを発表した後様々な企画展示およびアートフェアなどで活躍、現代アートのシーンにおいて注目を集めている。



山田紗子

藤本壮介建築設計事務所建築を学び、その後東京芸術大学大学院に進学。在学時に東京都美術館主催「Arts & Life : 生きるための家」展で最優秀賞を受賞し、原寸大の住宅作品を展示する。近年の主な受賞に第三回日本建築設計学会賞大賞、第三十六回吉岡賞、2022年日本建築学会作品選集新人賞、第三回小嶋一浩賞など。

ユカイ工学株式会社

・Y・U・K・A・I・
・E・N・G・I・N・E・E・R・I・N・G・

ユカイ工学では、自社製品開発で培ったコミュニケーションデザイン、ロボティクス、IoT を強みとし、企業の製品・サービスの開発を支援させていただいております。コンセプトや製品のデザイン、ハードウェア設計、アプリ・ソフトウェア開発、量産支援、クラウドファンディングに至るまで、インハウスで行っているため、企業の発想を速やかに形にすることが可能です。

メインビジュアル



深地宏昌

デザイナー、グラフィック・リサーチャー（視覚表現研究者）、DIGRAPH 主宰。「コンピューショナルプロセス」と「手を動かす試行」の両方を大切にしながら、デジタルとフィジカルを掛け合わせたグラフィック表現の研究と実践を行う。カンヌライオンズ、ザ・ワン・ショー、NYTDC 賞、D&AD 賞など受賞多数。

クリエイティブディレクター 亀山 淳史郎



株式会社 SIGNING 経営補佐 / Social Issue Gallery SIGNAL 主宰 / Social Business Designer

社会課題とビジネス課題の解決をプランニングするソーシャルデザイン領域の業務を手がける。2017年“プレミアムフライデー”のプランニング&プロデュースをし、新語・流行語大賞にノミネート。2019年にポイントドネーション WEB サービス“BOSAI POINT”をアスリート本田圭佑氏と立ち上げ、グッドデザイン賞を受賞。2020年から日本発クリエイティブオンラインビジネスイベント“Innovation Garden”を手掛ける。2023年、ソーシャルイシューギャラリー“SIGNAL”を虎ノ門に開設する。

キュレーター 田尾 圭一郎



合同会社田尾企画編集室 代表。SFC（慶應義塾大学湘南藤沢キャンパス）特別招聘准教授。アートの企画・編集・コンサルティング。博報堂を経たのち、美術出版社「美術手帖」ユニットにて企業や自治体とのアートプロジェクトの企画、地域芸術祭の広報支援、雑誌・書籍の編集、展覧会企画などに携わる。2022年に独立し、現在に至る。東京都「わたしのからだは心になる？」「都市にひそむミエナイモノ」展クリエイティブディレクター、山梨国際芸術祭「アート・エコロジー2023」アーティストティック・ディレクターなどを務める。

キュレーター 生田 綾



CINRA, Inc. メディア「CINRA」編集長。

1989年、東京都生まれ。大学卒業後、編集プロダクションでファッション誌の編集業務に携わったのち、Webマーケティング会社でメディアの運用やSEO対策、編集を担当。2016年、ニュースメディア「ハフポスト日本版」に入社。ジェンダーや多様性などの社会課題について、ビジネス・政治・カルチャーの視点で取材を経験。2022年3月に退職し、4月にCINRA, Inc.入社

製品・サービス展示ディレクター 佐藤 勇介



株式会社 MAGNET プロデューサー。2012年マグネット設立。関西テレビのリブランディングプロジェクトなど、デジタル・グラフィック・映像・イベントなどの統合的なプロデュース・プランニングを数多く担当。世界で一番ボーダレスなメディアを目指すHEROXやモビリティ、東京都のパラスポーツ推進プロジェクトなど様々な企業・メディア・プロジェクトのプロデュースを担当。「SusHi Tech Tokyo 2024 ショーケースプログラム」の総合プロデューサー。

掲載物送付のお願い

広報画像提供素材 以下 URL、QR コードよりダウンロードください。
ダウンロード先 URL: <https://kyodo-pr.box.com/v/SusHiTech5-gazou1>

下記のオフィシャル写真をダウンロードしていただけます。

- ・キービジュアル、SusHi Tech Square 外観写真、ロゴ
- ・クリエイター+クリエイティブディレクター+キュレーター画像
- ・クリエイター過去作品参考画像



広報用画像ダウンロード
QR コード

掲載記事・放送番組内容につきましては、基本情報などの事実確認のため、ゲラ刷り・原稿の段階で、下記広報事務局までお送りください。また、お手数ですが掲載紙/誌、同録 DVD をご送付くださいますようお願い申し上げます。